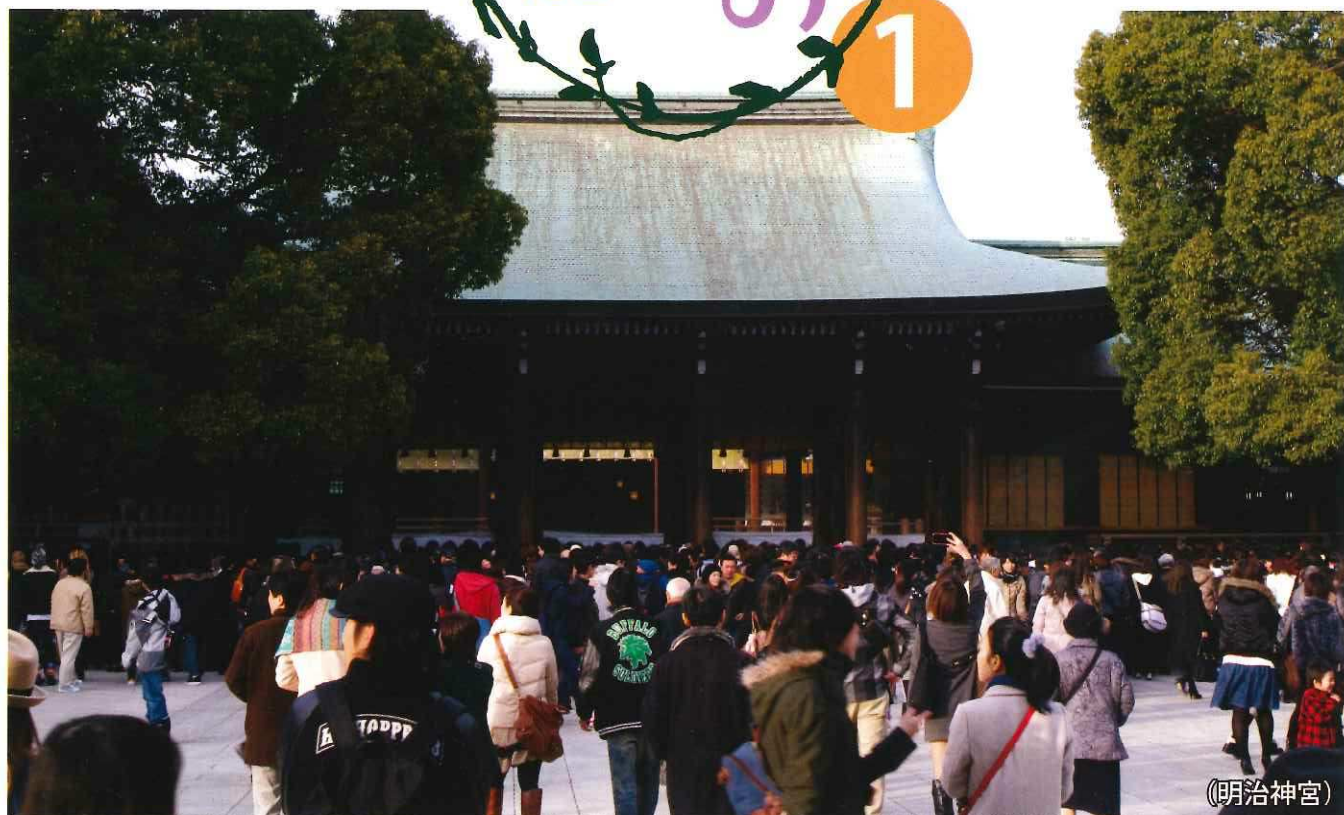


南無阿弥陀仏は
私のいのち



〒110-0012 東京都台東区竜泉 1-20-19
発行所 真宗 佛光寺派 西徳寺
TEL 03-3875-3351 FAX 03-3875-6796
http://saitokuji.tobihiro.jp/
発行人 脇阪 義幸
印刷 日生印刷(株) 03-6863-3263



五感のはたらき

大辞林に五感とは、視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚とある。これらの感覚によって外界の状態を認識する。いわば身体と心の5つのアンテナである。「五感を研ぎすませる」と使われる。

「視覚」即ち見ることを一例に考えると、「物を見るのは目」で、「見る」という機能を持つのは「目」だけなのか。

「味をみる」のは舌(味覚)、「脈を診る」のは指と耳(触覚・聴覚)、「腐っているかどうか」は味覚や嗅覚、「風呂の温度をみる」のは触覚、「季節の訪れは」五感全てで「みる」…。

いずれも「みる」という機能は、一つだけの現象ではなく、各々ほかの感覚機能によってその仕事をしていることが解る。

さらに「物を見る・見える」のは、視力があればよいのかという大事な問いがある。絶対欠かせないもの、それは「光」である。

今ある、目の前の姿しか見えていない私の目。他を見る目。自分のものさしでみている目。そんな私を照らして下さる「光」。「仏の光」。

私が今日まで生かされてきたのも、この五感の理を知らされると、有縁無縁の数知れぬ多くの方々のお支えと出遇いであったと気づかされ、こんな私にこそ仏の光が注がれる歓びを感謝申し上げるばかりである。

『智恵の光明はかりなし』

有量の諸相ことごとく

光暁かむらぬものはなし

眞実明に帰命せよ

(脇阪 義幸 記)

新年あけましておめでとうございます 本年もどうぞよろしくお願い申し上げます

一昨年12月1日付けにて住職に就任して以来早や、なんとか手探りの1年がたちました。お蔭様で元旦朝7時、賑やかに皆様方と2回目の当山修正会を勤めさせて頂きました。

本年も大谷師同様、変わらぬご厚情とご教導を宜しくお願い致します。

今年の年賀状に「念仏は 新しき人生を 創造する」(曾我是精師)の言葉を頂きました。八方ふさがりの私が、お念仏の教えに出会わなければ次の一步も

進めなかったことに気付かせていただくと、唯々「幸せ者」と喜ばせて頂くばかりであります。「時代が変わって、コロコロ変わるのは、私の心。変わらないのは、私の性根と苦悩。変わらないのは、ただお念仏だけ。」



「欲ふかき人のこころと降る雪は つもるにつれて道もわからん」

全てのことが、自分中心のものさしで相手を見ている私。『自分・自分』としか頭がない、私の1年が始まります。「損が得か 良いか悪いか 私の思いですべてを決めた ただ1つ これで『よし』と私自身が決まらない」(京都佛光寺の八行標語より)

今年も[西徳寺のあゆみ](平成29年度聞法会)に多数のご参加をお待ちしております。



お詫びとお願い

西徳寺本館(第1会館)の老朽化(1986年竣工:築30年)にともない、下記の要項の通り修復工事をおこないます。

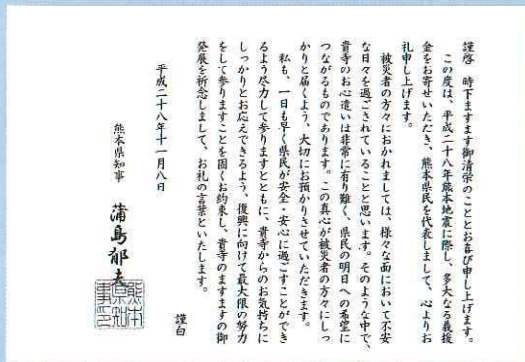
工事は安全第一に行いますが、期間中は何かとご不便とご迷惑をおかけいたします。ご理解とご協力を頂きますよう宜しくお願い申し上げます。

記

工事名 西徳寺保全工事
 工事内容 外装工事、給・排水設備工事、水場工事、トイレ洋式化工事、寺務所改修工事ほか
 請負者 (株)本間工務店
 工期 平成29年1月10日~7月31日
 契約額 4千万円

以上

熊本県知事御礼状

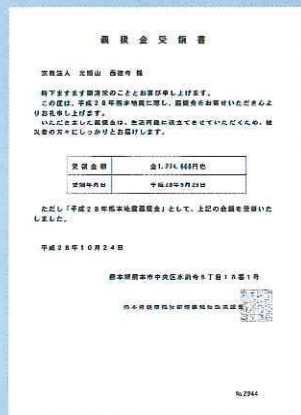


昨年4月に起きました「熊本地震」に対する救援金として、多くのご支援を賜りましたこと、改めて御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

遅くなりましたが、熊本県知事からの御礼状と救援金受領書の御紹介をさせていただきました。

西徳寺住職 脇阪 義幸

熊本地震救援金受領書



親鸞さんのことば

像法のときの智人も
自力の諸教をさしおきて
時機相應の法なれば
念仏門にぞいりたまう
『正像末和讃』

松井憲一

お釈迦さまの教えが、生き生きと伝わっている時を「正法」といいます。時代がたつにしたがつて、正法と形が似ている時を「像法」といい、教えだけが残った時を「末法」といいます。ここで、像法のときの「智人」というのは、続いて「自力の諸教をさしおきて」と讃えられるところから推測して、インドの龍樹菩薩・天親菩薩の「智者」を指すといわれています。

はじめ、仕立てた服を着た人が、こんなにぴったり身体に合うものかと、着心地を楽しんでいました。仏教も同じで、教えが明瞭に説かれていても、自分の生活に合わなければ、救いにはなりません。お釈迦様は、自分の生も死もすべては「縁」に

よって成り立っている事実が目覚め、生のみで執着するところに苦しみの原因があると、教えられました。しかし、「ポツクリと逝きたいくせに 医者通い」「大凶は賽銭箱に 戻しとく」というような、身勝手な生き方しかできないわれらに、相應する法があるのでしようか。

その時だけの幸せや楽しみのみを求めるのがわたしですから、「欲望は 見ざる 聞かざる かなえざる」とわかったような気になっている今の自分が全否定されるような教えに遇わなければ、わたしに目覚めは起こりません。しかし、自分を否定されることは、事実であつても嫌いですから、思い込みがはぎとられるとつい愚痴つてしまふ在り方が破れることは、容易ではありません。それで聖人は、「時機相應の法なれば」の左に、「トキト、シユジョウト、アイカナエル、ホウトイウナリ（『佛光寺真宗聖典』六二頁）」と仮名を振つておられます。

時機の「時」は、法を聞き覚えてわかったとかわからないとか、詮索しているような時ではなく、法を聞き続けている時です。こんな聞き方ではいけないと思ひながら

も、何年もハッキリしなかつたところが、「時節到来」して、法に領けた時です。それは、ようやく喜べたというような自分の思いを飛び越えて、わたしの闇が徹底して照破され、助からない身であつたと気づかされた時です。

時機の「機」は、「シユジョウ」とありますから、「わたし」のことです。法を聞き続けることによって、法と無縁であつた「わたし」が、「アイカナエル」ご縁になつた「わたし」です。南無阿弥陀仏のみ名の呼びかけが、「わたし」に到来したのが「機」です。だから「時機相應の法」は、南無阿弥陀仏の教えに今の「わたし」が助かることです。「われらがごとく下根の凡夫、一文不通のもの、信すればたすかるよし、うけたまわりて信じそうらえば、さらに上根のひとのためには、いやしくとも、われらがためには最上の法にたまします（『歎異抄』十ニ章）」と、頷く「わたし」が実現することです。

龍樹菩薩は、人びとより八宗の祖と仰がれる大学者で、空の思想を理論づけられました。『十住毘婆沙論』の「易行品」では、厳しい修行ができないこころ弱き人は、阿弥陀仏の本願にしたがつ

て浄土に帰すべき仏道があると説かれました。天親菩薩も多くの本を著し、あらゆる苦しみや悲しみのこころを分析し、さとりをうる方法として唯識思想を理論づけられました。『浄土論』を著し、自ら浄土に往生することを願われました。龍樹・天親の二菩薩は、われらの時代を救うために相應したお念仏の教えをお聞き頂いたと、そのご恩を讃えられます。それで、他力念仏の教えにお入りになられたお二方に「念仏門にぞいりたまう」と、尊敬して報謝されるのです。



山門の言葉

晴れてよし 降ってよし
いまを生きる

本山佛光寺

平成二十七年、訪日外国人観光客数が約一千九百万人となり、前年比四十七・一%増という結果が示された。日本政府は東京オリンピック開催の年、平成三十二年に約二千万人の訪日外国人を目標としていたが、早くも目標達成しそうな勢いだ。

日本といえば四季折々の花と緑が生み出す景色を楽しむことや、季節の物、いわゆる旬の物を味わう食文化があるが、これらは日本特有のものであり海外の人を魅了する大きな理由の一つだという。

日本に生まれ育った者からすると、それほど意識するようなことではないが、満開の桜を見れば「春」を感じ、食卓に秋刀魚が並べば「秋」を感じるように、私たちは四季を通し、自然と共存していることを実感してきたのかもしれない。

このような文化が生まれてきた背景には、様々な自然環境を生きている中で、自然と人間とは、どうやっても切り離せない関係であることを肌身で感じ、四季と共に生きた歴史が生み出してきた文化であると感ずる。

ところが私たちは、寒い季節や暑い季節、晴れの日や雨の日、それぞれ自分の都合で分別し、「自然と共に」と、堂々と言えないような在り方をしている。

しかし現実には、私の思い通りになる季節も天候もない。それこそ自然と共存せざるを得ないにもかかわらず、私の願望と事実の違いによって、不平不満や愚痴が絶えない。そのようなことに一喜一憂している相は、「今」を生きていると言えるのだろうか。

今回頂いた言葉からは、「今」を見失い生きる私に、様々な環境を通し、過去でもなく未来でもない「今」に出遇って欲しいと願われているように思う。

そこには、私の分別を超えた世界に支えられ、共に生活してきた事実があることを、改めて感じさせられる。
(大橋 伊知郎 記)

日誌

- 11月15日 仏教青年会報恩講「悲しみと共に生きる」
講師 大谷 義文師
- 11月16日 『唯信鈔』に聞く 講師 宗 正元師
- 11月17日 責任役員会・総代会
- 11月19日 定例聞法会、混声合唱団「エコー」練習
- 11月20日 城北ブロック会聞法会
(大塚・大和田 参加者19名)
- 11月24日~28日 本山御正忌報恩講 出勤 御堂式務衆
脇阪住職・蓮井・仲井
- 11月27日~28日 「本山御正忌報恩講」
団体参拝旅行(参加者38名)、
宗祖忌
- 12月1日 「いのち 二人の宇宙」公演(本堂)
- 12月3日 社交ダンス練習会、
混声合唱団「エコー」練習
- 12月7日 東京教区会(新横浜グレイスホテル)
- 12月7日・8日 中興忌
- 12月10日 同行会「現代の聖典」に聞く 法話 脇阪住職

第327号

婦人会専用口座：
名義 西徳寺婦人会
番号 10030 239 82431

新年のご挨拶

明けましておめでとうございます。

「1年の計は元旦にあり」と、幼い頃から何かしら計画を立て、今年は、今年こそはと心新たにしたものです。今は年の瀬は慌ただしく、新年を迎えても特に変わらない。自分の心が空虚だからだろうか。生かされて生きているとはいえ、自分の気持ちで命あるものを食べ、元気で心豊かに日々を過ごしたいと思っている私がいる。

阿弥陀仏の光明をいただきながら、まだまだ心からの念仏ができていない。今年こそは初心に還って聞法をしたいと思っています。本年も宜しくお願いします。

婦人会会長 太田愛子

～法語カレンダーに聞く～ (2016年12月)

「世のもろびとよみなともに このみさとしを信ずべし」

『正信偈』は、『仏説無量寿経』を人生の依り処とされた念仏者の歩みが表現されている。同時に、私に念仏の信心唯一つを勧めてくださっている。

私たちの信心は、自分の思いが中心となっている。病気になっているときは医者の方を信じるが、病気が治れば今まで信じていたことが跡形もなく消えてしまうような日暮らしをしていないだろうか。私の一生涯を支えるような真実の信心は、私の思いからは起こってこない。

念仏の信心とは、どこまでもいただく信心であると教えられる。自分の常識に縛られ、目の前の出来事に一喜一憂してばかりの私に、先達は本当にそれでいいのか、虚しい人生を送っていないかとたえずよびかけてくださっているのではないだろうか。

(蓮井 邦宗)

次回聞法会ご案内

日時 平成29年2月15日(水) 午後1時～3時
場所 西徳寺 星月の間
法話 法語カレンダーに聞く(真宗教団連合カレンダー)
「無明の闇を破するゆえ 智慧光となづけたり」
最高顧問 大谷 義博
蓮井 邦宗

ひとこと

介護5の主人を施設に入居させ、「ついに行く道とは兼ねて聞きしかど、昨日今日とは思わざりしを」(在原業平)の和歌を身に染みて思う日々ですが、存命の感謝を忘れず、お計らいに任せて一日一日を精一杯に過ごすよう努めて居ります。

(田中 年子)

掲示板

平成29年1月

元日(日)	午前7時	修正会
8日(日)	午前11時	婦人会新年会
14日(土)	午後1時	社交ダンス練習会
21日(土)	午後1時半	定例聞法会
	午後3時15分	混声合唱団「エコー」練習
22日(日)	午後3時	評議員会新年会
24日(火)	午後7時	仏教青年会『歎異抄』に聞く
		講師 宗正元師
26日(木)	午後1時半	『唯信鈔』に聞く
		講師 宗正元師
28日(土)	午後1時	社交ダンス練習会
	午後3時15分	混声合唱団「エコー」練習
	午後5時半	同行会新年会

城北ブロック会聞法会

去る11月20日(日)、大塚・纒割煮大和田におきまして、会員19名の参加をいただき、聞法会を行いました。今回も皆様と『正信偈』の「天親菩薩」について学ばせてもらいました。大谷顧問は法話の中で、「私たちは生かされているいのちを忘れ、様々な現実を妨げにしている」と話されていました。

また懇親会では担当が変わったこともあり、会員の皆様から活発な意見をいただきました。これからもっとコミュニケーションをとっていきたくと考えております。

次回は**3月12日(日)、王子・北とびあ**におきまして聞法会を行う予定です。**初めての方でも遠慮なくご参加下さい。**皆様のご参加をお待ちしております。(仲井 真裕 記)



えこお志お礼

滋賀県 福性寺 様

ご浄財を頂戴いたしましてありがとうございます。
ご芳名の掲載をもってお礼とさせていただきます。

編集後記

新年、明けまして、おめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

昨年は熊本地震にはじまり、全国各地で様々な自然災害が発生し、人為的な事故により大勢の命が奪われるなど、痛ましい出来事が多数起こりました。

生死無常の人生においてあらためて問いかけられる言葉は、「今日といういのちを頂いておる尊さに目を覚ませ」という仏様の喚びかけであります。(主任 木村 記)

西徳寺ホームページアドレス：

HP <http://saitokuji.tobihiro.jp/>

ゆうちょ銀行お振り込み口座 00120-0-80670 名義 西徳寺

西徳寺報恩講「生死無常のいのち」

布教使 高橋 速円 師

去る11月5日(土)6日(日)、西徳寺におきまして宗祖親鸞聖人の報恩講をお勤め致しました。両日にわたり3席のご法話を賜りましたのは、新潟県出雲崎町・万因寺住職・高橋速円布教使でありました。

ご講題に『未灯鈔』の第6通をいただかれ、様々な世間の評価などに惑わされず、ただ一筋にお念仏を喜んで生きて欲しいという、親鸞聖人のお心をお話しく下さいました。

親鸞聖人の晩年に大変な飢饉があり、多くの犠牲者が出ました。そういう現実において次々と門弟が餓死していく中で、お同行の「念仏一つでたすかるのですか」という動揺に対して、親鸞聖人はお手紙の中で「生死無常のことわり、くわしく如来のときおかせおわましてそうろううえは、おどろきおぼしめすべからずそうろう」といわれ、私たちの人生は生死無常、形あるものは必ず壊れていく。それこそが仏様の教えであり、今さら驚くことではないと仰いました。

縁があって今日のいのちがあり、明日はわからないのが私のいのちであります。今日が最初で最後の日であり、一呼吸、一呼吸が私の生きておる確かな証です。この身は目に見えない大きないのちのたらしきの中に生かされ、支えられているのです。それなのに、都合良く暮らしているうちは無関心で、都合の悪いことに遭遇したとき、はじめて人生を深く問い直すような私であります。当たり前のことではあります、それが素直に我が人生と領くことができないのが凡夫であります。

浅原才市さんの言葉に「ありがたいな ご恩おもえばみなご恩この才市もご恩でできました」とありますが、縁とは善悪ではかることではなく、そのすべてがこの私の人生であります。これまでの人生も誠に不可思議なご縁で積み重ねられてきた。親鸞聖人は『正信偈』に「帰命無量寿如来 南無不可思議光」と示され、計り知れないいのちの中に私は存在しています。何一つ欠けても今日の自分はなく、すべてが無駄ではなかったと頂戴していく仏の心に頭が下がる。それが親鸞聖人のあきらかにされたお念仏の生活であることをお話いただきました。

(聞き手 木村 専正)



※「えこお」に対してのご意見・ご感想をお寄せ下さい。(メールでも結構です)

✉ saitokuji@ce.wakwak.com